

NIC あれこれ探検隊

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

出張相談 外国人家族の子育て教室「マミーズサロンナカク」



名古屋市では、近年外国人の長期滞在化が進み、日本で子どもを出産し、育てる人が増加しています。

言葉の壁から子育てに必要な情報を十分に入手できなかったり、同じ悩みをもつ友達を見つかることができないまま、不安や孤独を感じながら日常生活を送っている外国人の保護者は少なくありません。

マミーズサロンは中保健センターが年に3回程度開催する名古屋市中区に在住する外国人家族のための子育て教室です。NICも2016年以来「外国人生活相談出張サービス」として協力しています。

日本での子育てに必要な情報提供(英語、中国語の通訳付き)を行い、様々な公共サービスに外国人もアクセスできる環境づくりを目標としています。10月のサロンに参加した人たちは、中国、フィリピン、インドの9名でした。

「親になる、親になった外国人」にぜひ知ってほしいこととして、サロンでは、歯



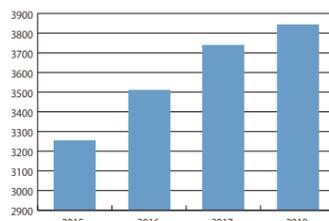
▲熱心に耳を傾ける親たち

科衛生士、管理栄養士、保健士さんが、妊娠、出産、子育てなどのアドバイスをしました。NICからは、生活相談の案内を紙芝居を使って図解でわかりやすく説明しました。「日本では帝王切開を希望できないのですか」、「陣痛がきたらすぐにわかりませんか」、「生後3カ月になるが、ミルクをなかなか飲んでくれなくて」、「帰国して中国では離乳食をもう食べさせていましたが、日本に戻ってきたら時期尚早といわれた」など、参加者からは具体的な悩みが寄せられました。

今年度サロンはすでに6月、10月と終了しており、次回は3月を予定しています。

詳細は、名古屋市中区Webサイトをご覧ください。

名古屋市外国人乳幼児(0歳-5歳)人口推移



▲名古屋市外国人住民統計より



ぶらり

ライブラリー



特に目的があるわけではないけれど、ぶらっと来てみたら、気になることに合える場所。このコーナーではNICライブラリーと、ライブラリーの本をご紹介します。NICライブラリー 名古屋国際センタービル 3階 9:00~19:00 月曜休館

みなさんが選ぶ、NICライブラリーおすすめの一冊

今回は、2019年度の締めくくりとして、ちょっと視点を変えて「みなさんが選ぶおすすめの一冊」をご紹介します。NICライブラリーを利用されている方は、どんな本を読み、どんな感想を持たれたのでしょうか。みなさんの声をお伝えします。

【「本の名前」/著者名】

①「すごいね!みんなの通学路」

／ローズマリー・マカーニー(文)、西田佳子(訳)

世界の子どもの通学路が紹介されていて面白い。自分がどれだけ安全に学校に通えているかわかる。

②「英単語の語源図鑑—見るだけで語彙が増える」

／清水 建二、すすき ひろし

かわいらしい絵とともに、その絵の内容をとてわかりやすくかみくだいた日本語で説明してあるところが良い。英単語は、いくつかの意味が組み合わさり出来ている点が、日本の熟語と似ていると感じる。この本を読むと、そのような面白さを見つられる。

③「未来を変える目標—SDGsアイデアブック」

／Think the Earth(編著・発行)

斬新で面白いアイデアや、みんなで取り組むべき大きなアイデアなどが具体的に載っていて、SDGsについて知ることができる。自分も何か行動に移せるのではないかと、自分も楽しく世界を変えたい、と思った。

④「聞いてみました!日本に暮らす外国人(全5巻)」

／佐藤郡衛(監修)

外国と日本の違いがいろいろ紹介してあって、面白い。

⑤「ミイラになったブター—自然界の生きたつながり」

／スーザン・E・クインラン(文)、藤田千枝(訳)

ある生き物が滅亡した場合、関連する生物だけでなく、植物も連鎖的に姿を消し、その土地の生態系が完全に失われてしまうということを初めて知った。全ての生きとし生けるものはつながっていて、不要な存在など1つもないことが実感として伝わってくる。

同じ本でも読む人の感性によって評価や感想は異なります。気になる本は実際に自分で手に取ってみて、自分はどう思うのか、共感したり、違う考え方だったり、他の人の意見と比較するのもまた読書の楽しみの一つです。今回紹介した本について、みなさんはどんな感想を持つでしょうか?



クイズ

Q. NICライブラリーに所蔵されている本は、およそ何冊あるでしょうか。

000'822944 V

NIC レポート

インターンを終えて

名古屋市立大学人文社会学部 3年 鳥居 咲良さん



NICでは、この地域の学生が「多文化共生」の現場を体験し、将来グローバルに活躍するために視野を広げることを目的に長期インターン生を受け入れています。昨年6月から5カ月間、おもに「ワールドコラボフェスタ2019」の企画に携わった鳥居さんが、自身のインターンシップ活動を振り返りました。

私が担当したステージ企画「ワールド・ミュージック2019~世界の音楽でつなげよう!心と心~」では、多文化を知ってもらおうきっかけとして音楽というテーマを選び、NIC地球市民教室の外国人講師とそのご紹介の方々に出演者としてご協力いただきました。はじめのうちは私の準備不足でうまくいかないこともありましたが、ステージ練習の前にはしっかり準備をして自信をもって自分の言葉で伝えられるようになってからは、練習がスムーズに進み、次第に、出演者の方々からも自主的に意見が出る良い雰囲気になっていきました。台風のため本番での披露はできませんでしたが、この経験を通して、自分の言葉で伝えるための準備の大切さを学びました。半年間ありがとうございました!

ブラジル教育フェアに出張相談!

12月8日(日)、名古屋市公会堂で開催された、第2回在名古屋ブラジル総領事館主催の教育フェア「FEIRA DE EDUCAÇÃO」に、NICも出張「教育相談」ブースを設けました。県内外を問わず、ブラジル人学校や大学、留学機関など、多くの教育機関がブ



▲NIC教育相談員と相談者

ス出展しており、日本語学習、進学、就職についてのセミナーなども行われました。

名古屋市、愛知県はもとより、静岡県など近隣の県からも多数のブラジル人が参加しました。午前10時の開始から午後5



▲順番を待つ相談者たち

時30分まで、相談は途切れることなく続き、1日で14件の相談を受けました。大学・専門学校・高校進学や奨学金についての相談が多く、ブラジル人の教育に対する関心の高さが伝わってきました。

グローバルに活躍する若者たち

グローバル人材育成研修「グローバルユース塾」を開催しました。

地球の課題を自分ごととしてとらえ、自ら行動する若者を育成する「グローバルユース塾」。今回は一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)代表理事の辰野まどかさんをお招きし、「グローバル・シチズンシップ(世界をよりよくする志)とともに、自ら未来を創り出す」を掲げた連続講座として講演やワークを通して、参加者の思い描く未来の社会や自身のあり方を考えました。

1日目 自分を振り返り、仲間とともに未来を描く!

はじめに、「グローバルに活躍するために、まずは自分を振り返り自分の思いと繋がることが大切」と辰野さんが参加者に語りかけると、それぞれが、どんな風に生きてきて何に関心があるのかを考えました。自身の思いや考えを言葉にして人に伝えることが「行動する人」への第一歩であることを学び、また、他の参加者の話を聴くことで相手のもつ異なる視点や価値観を理解し、共感する姿勢を学びました。

2日目 様々な生き方とオリジナルの未来

1日目の自身の振り返りから気づいた自分の関心事をテーマに設定し、「教育」「環境」「貧困」など関心分野が近い参加者とグループワークを進めました。2030年には世界の様々な課題が解決できていると仮定し、取り上げたテーマの解決に向けて2019年から11年間でどんな取り組みがあったのか、自分はどんなことをしてきたかなどについて、アイデアを

出し合い全体で発表しました。

参加者からは、「誰かが行動するのを期待するのではなく、自分が行動することが大切」、「なぜ自分はこの課題に関心があって、なぜ取り組むのか気づくことができた」などの声がありました。



▲自分の目標などを書いたGiFTカードを持って撮影

今回の研修では、参加者それぞれが他の参加者とともに自分の問題意識や思いをブラッシュアップする機会をつくることができました。「家族や学校の友だちとは照れくさくて真面目な話ができなかった」と打ち明ける参加者もいて、NICは今後も関心や思いを語り合える場をつくりたいと感じた2日間でした。